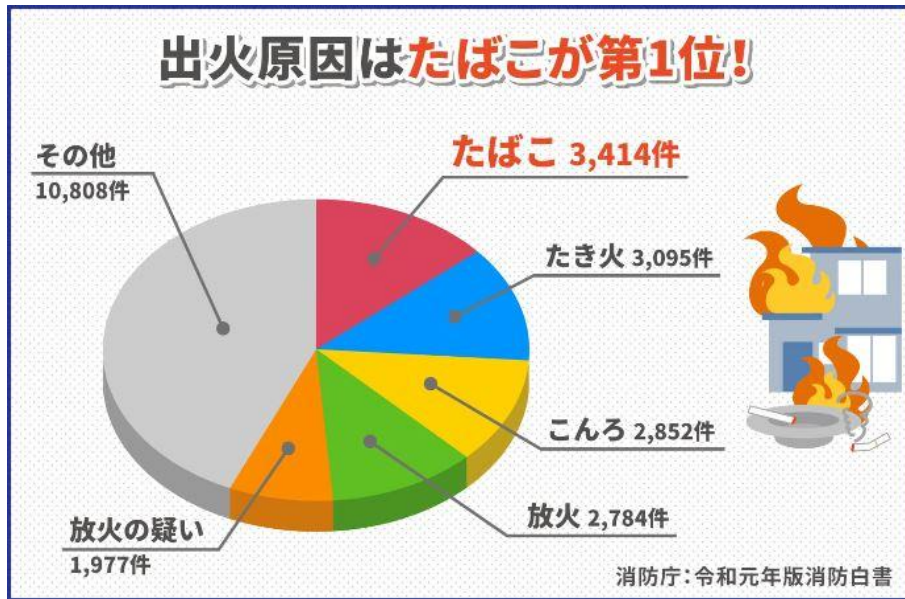


週刊 タバコの正体



HOME ALSOK研究所 HPから

タバコの煙を吸い込むと健康を害することは繰り返し伝えていますが、じつはタバコがもたらす社会的損失はそれだけではありません。

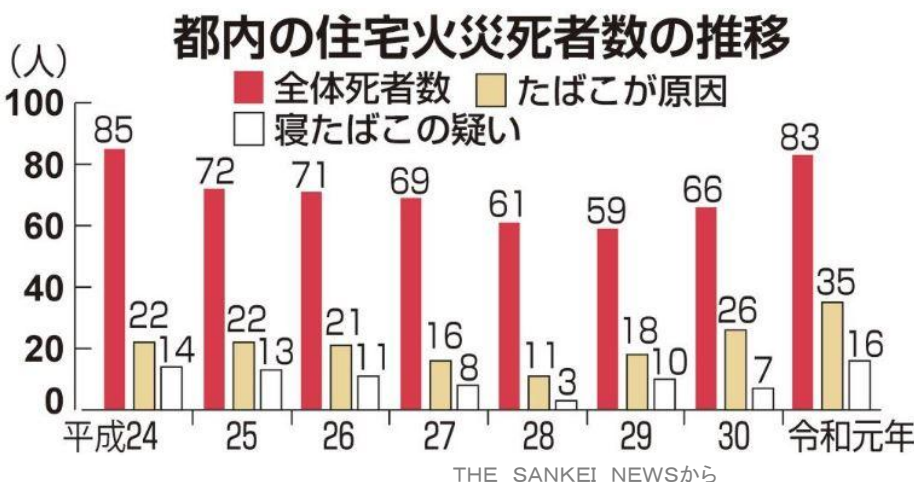
左のグラフを見てください。消防庁の発表による令和元年度の出火原因の第1位がタバコの火なのです。喫煙や受動喫煙で病気になるまでには何年もかかりますが、タバコの火は、家屋や設備など短時間で焼きつくしてしまいます。

そして、人命も犠牲になっています。下のグラフにあるように東京都内でタバコが原因の火事で亡くなる人が増加傾向にあり、そのうち「寝たタバコ」が疑われる事例も多いのです。そこで、火の着いたタバコを布団の上に置くとどうなるのか見てみましょう。下の写真のように30分たっても焦げ続けるだけで炎をあげて燃えませんが、この状態は「無煙燃焼」と呼ばれ、炎は出ませんが一酸化炭素が多量に発生します。



堺市消防局「無煙燃焼の再現 座布団燃焼実験」から

じつは、一酸化炭素を大量に吸い込むと意識がなくなり命を落とす「一酸化中毒」に陥ります。つまり炎があがるまでに死亡してしまう可能性もあるのです。



いかかでしょうか、タバコは火気を取扱う上での「危険物」だと言えませんか。タバコにも「火の用心」が必要です。

産業デザイン科 奥田 恭久